

定価 一月一元二角五分 半年六元 一年十二元
 郵費 別記
 印刷 印刷部
 発行 發行部
 社址 磐城郡平町
 電話 三六〇番

寄書

自ら侮る勿れ
 長澤生

先日私が名古屋に行きま
 した時汽車の中であういふ
 事を見たのであります。私
 より二人ばかり前の方に三
 人の洋服の紳士と和服の青
 年とが何か愉快さうに世間
 話をしてゐられました。そ
 の中にその話も一段落付き
 ますると一人の洋服の紳士
 が他の同じ洋服紳士に向つ
 て「貴方の御職業は何で御
 座いますか？」とかう問は
 れたのであります。すると
 一人は私は岐阜縣の社會課
 に居りますと答へられもう
 一人は日清紡績の人專課に
 居りますと答へられたので
 あります。今度は和服の青
 年が答へる番になつたので
 あります。どうした事か
 この青年は頗る當惑した、
 様な顔をして居りましたな
 か。答へません。問ひか
 けた人は貴方の御職業は何
 ですか？と重ねて問はれた
 のであります。するとその

青年は顔を少しく赤らめて
 私はつまらんものでありま
 して實は百姓でございませ
 と小さな力のない聲で答へ
 られたのであります。私は
 側でその答を聞いておまし
 て私迄も悲しくなつてきた
 のであります。この青年は
 自分の事業をつまらないも
 のだと思つてゐる様であり
 ますが、何といふあはれな
 青年ではありませんか？知
 らずこの青年日常の生活は
 どんないかに不愉快なこと
 あるだらうかと窃に同情に
 堪へませなんだが諸君實
 は現代の農村には斯の如き
 青年が多いのではあります
 まいか？百姓はさうも儲か
 らぬとかういふ言葉を我々
 は度々聞くのであります。
 それ程百姓は儲からないも
 のでありますか？ 私はた
 しかに儲かるものだと信ず
 るのであります。かの篤農家
 として有名な安城町の板倉
 源太郎氏は一貫から遣り
 出して今日では一ヶ年四千
 三百圓の純益を擧げて居ら
 れるさうであります。板倉
 農場には練習生といふ農事
 研究の廉で無料で働く人が

居られますから、勿論外の
 處ではこれと同等の利益を
 擧げることとは出来ませぬ
 けれども従來の平凡な農業
 經營法をば多角形的な自體
 的の經營法に改善すること
 によつて現在の多くの入々
 の収益よりは必ず幾割か増
 すことが出来ると思ひます
 それから百姓はさうも汚な
 いとかういふ言葉も度々耳
 にするのであります。併し
 これは元來百姓その人に趣
 味がないからであります。
 華やかな服装をして市街を
 フラ〜と歩いてゐる都會
 人を觀て都會生活はあんな
 に美しいのに我々の百姓は
 こんなに汚ないと思はれる
 方はそれは社會の裏面のわ
 からないをして虚榮心の高
 い人でありまして、趣味が
 出さへしますれば決して百
 姓は汚ないなど、氣にかけ
 るものではありませぬ

新築落成

双葉修齊女學校
 長塚村電話一八番

亡信子新益に相當り候へ
 共提灯供物等御遠慮申上
 度く候
 平町南町
 大森勇

洋食

現代の要求が生んだ
 淺草式食堂.....
 定評ある福壽軒主人の調理.....
 十錢均

生ビール一パイ十錢
 明治四十三年創業
 平町に於ける洋食店開祖
 福壽軒
 電話二八番

本日より料金
 大破格値下斷行
 磐城タクシーへ
 電話四五四番
 平驛前

夏服の季節となりました。スマートな今年度の新製品が豊富に取揃ひました。

- ◇輕裝上衣 黒セル 4.20ヨリ
- カシミヤ 10.00ヨリ
- ◇白 1.60ヨリ
- ◇白づぼん .60ヨリ

平二あかや洋服店 電話203

中村、福島間定期乗合自動車
 本場自動車部内に營業所を置きました。
 御用の節は電話二三九番に願ひます。
 (料金中村—福島間片道一圓五十錢小人半額)
 中村 木場自動車部内
 福中自動車部 電話二三九番
 チドリ自動車部
 中村發、前六、三〇同八三〇同二〇、三〇後二、三〇
 同四、三〇同六、三〇
 福島發、前六、〇〇同八、〇〇同二〇、〇〇後二、〇〇
 同四、〇〇同六、〇〇



報氣天
今晩は北東の風
曇り小雨模様
明日は南東の風
曇りがち小雨模様
午後より天気が
次第に回復

△前九・一〇 料理献立
「玉葱のフライ」宮城縣第
一高等女學校發表 日用
品値段「學生靴類」
△前一〇・三〇 家庭講座
「お琴のお稽古と童謡」七
(寶演)宮城道雄、牧瀬數
江
△後〇・〇五 音曲吹き寄
せ「桃月亭羅太郎
△後六・〇〇 子供の時間
獨唱(小學校第二學年位
の方々のため)小松貞子
童話劇(小學校第三學年
以上の方々のため)東京
中野桃園第三小學校

川柳の先代萩

岡田朝太郎

○伊達なここと張附柱金で泥
み
○名高さは下駄と張附柱な
り
○倭人が寄つて吉原雀にし
○誰故に亂れ初めにし御放
埒
○信夫摺召し傾城に亂れ初
め
○御放埒萩大名の紅葉狩
○三浦では吉原雀様といひ
○六十萬石傾城往生
○御朝寝の御次高尾が噂な
り
○吉原へ振られに本の籠で
行き
○大名が恐いもんかと高尾
云ひ
○持てる手を汝知らずや握

之助

○御振られ遊ばすげなと奥
で云ひ
○黄金花咲く陸奥の客を振
り
○七符にも十符にも高尾寢
ぬ氣也
○錦木を紅葉に立てる無駄
な事
○素直にすると御高様く
○紅葉の方といふべきに惜
しい事
○吉原の外聞になる意地を
張り
○四角な玉子吞むと見て高
尾を産み
○山人を振り山鳥に靡くな
り
○十符よりもシマの財布が
ようざんす
○堀割も下水の方がようざ
んす
○島田奴は錢にならぬと遣
手云ひ

○焼味噌の方へ高尾は引ず
られ
○女敵と思へど島田蘭が立
たす
○御釋伽様と固木の下駄が
出来
○伽羅の香に脊中を向けて
名を残し
○情の無き座敷へ秤持つて
来る
○涙拭ぐひサア秤に掛けな
んし
○禿ども秤の側に泣いて居
る
○おれならば貫名があると
遣手いひ
○尻が小さいと三浦まだ不
足
○米で請出すと曲輪が埋ま
るとこ
○死に、行く高尾みんなに
羨まれ
○船まではあやかり者とみ
んな云ひ
○アイ否でありんすを聞き
抜放し
○松浦瀉向いて高尾は愁歎
し
○意地を張り詰めて氷の下
紅葉
○角な玉子を三又でぶちく
だし
○甲斐犬よ喰れ損ふ雀の子
酒が出たので評定が長く
なり
○安藝の方萬よしとの御評
定
○其板はみんな柱目の御捌
き
○九つの太鼓がないとムツ
は聞
○赤腹を垂れずに云ふと大

琴曲

千鳥 (箏曲獨奏)

不憫や濱邊に只一人友無
ちどり泣わめき武士は物の
哀れを知といふは偽りよ虚
言よ鬼界が島に鬼はない、
鬼は都に有けるぞや馴初し
其日より御免の便り聞せて
たべと月日を拜み龍神へ願
立ていのりしは、連て都の
榮耀榮華の望みでなし、簀
むしの様な姿を元の花の姿
にし責て一夜は添寝して女
に牛れた名聞と是一つの樂
みぞや女一人のせた迎輕い
船が重らうか人の歎きを見
る目がないか、聞く耳持ぬ
か乗せてたべ、乗せをれと
聲を揚げては打招き足すりし
ては伏轉び人目も恥ずに泣
居たる合海人の身なれば、
一里や二里の海こはいとは
思はねど、八百里九百里が
遊ぎも水入も叶はねば今此
岩にかしらもを打あて打碎
きいま死る少將様餘殘惜い
さらばや無さうが者とりん
によぎやつて呉めせと泣々
岩根に立あがる
秋の曲 (箏尺八合奏)
唄替手 前田白秋

眼鏡
トキハヤ
平町一丁目

同本手 笠井茂子
尺八 小竹歌山
きのふ社早苗とりしがいつ
の間に稲葉をよぎて秋風ぞ
ふく久方の天の河原の渡し
守君渡りなば楫かくしてよ
月見れば千々に物こそ悲し
けれ我身ひとつの秋にはあ
らねど 山里は秋こそこと
に侘しけれ鹿のなく音にめ
を醒つゝ散らねども兼ねて
ぞをしき紅葉ばは今限り
の色とみつれば秋風の吹雪
きに立てる白菊は花かあら
ぬか浪のよするか
玉葱のフライ
宮城縣第一高等女學校
▽材料及び分量(五人前)
玉葱中五個、新粉五勺、
メリケン粉でも宜し酒二
勺、鹽胡椒適宜胡麻油一
合
▽調理法 玉葱の皮をむき
丸の儘鹽水に入れて茹でま
す、これをたてに五六分の
厚さに大きく切り充分水氣
を切つて軽く鹽と胡椒とを
振りかけて置きます新粉を
酒二勺で溶き足らぬだけ水
分の水を加へドロドロに溶
いて玉葱の衣と致します、
此の用意が出来上りました
ら充分に胡麻油を煮立て衣
を着けた玉葱を揚げ新聞紙
に取り油を切つてソースを
添へて供します、尚玉葱の
の香が好きならば生のまゝ
か又はざつと茹で、衣をつ
けます

亡昌子新盆の處時節柄提灯
其他の御供物一切乍失禮御
辭退申上候
平町三丁目 山田勇太郎

棟岳院新盆に相當仕候へ共時節柄提灯其
他の供物一切御遠慮申上度く何卒惡から
ず御承知願上候
平町一丁目 飯田近治

謹啓法授院新盆に相當り候へ共故
人の遺志に依り提灯供物等一切乍
失禮御辭退申上候 敬具
平町古鍛冶町
水野虎三郎

八月十日より九月十日まで
發賣記念景品付特賣
五色汁椀 五個箱入金九十錢
特製
御買上毎に(樺富貴塗丸盆箱入一枚又)差上ます
(は錦繪付菓子器箱入一個)差上ます
何卒御来店下さいませ
平町一丁目 電話四〇五番
和久井屋漆器店

亡妻新盆の處時節柄提灯其
他の御供物一切乍失禮御辭
退申上候

平町 市原卯太郎

亡母の新盆に相當り候へ共時節柄提灯其
他供物等一切御遠慮申上候

平長橋町 木田喜一郎

天瑞院新盆に相當仕候へ共時節柄
提灯其他の供物一切御遠慮申上度
く何卒悪からず御承知願上候

平町田町 松月堂 金子重次

誠晃院新盆に就いては時節柄提灯供物等
御遠慮申上げます

赤井村 丹吳忠雄

寶鐸院新盆に付ては時節柄提灯其他供物
御遠慮申上候

平町 森本盛一

亡父重雄儀新盆に相當り候へ共緊縮の折柄供養提
灯並に供養料其他一切の御贈與を甚だ勝手釜敷候
へ共絶對御辭退申上候間不惡御承知被下度願上候

平町 鍛冶町 酒井 一 郎
後見者 酒井 秀 治 郎

亡父塚本喜八儀 新盆に相當り候處故人の遺
志により提灯其他供物等一切御辭退申上度乍失禮
以紙上謹告仕り候也

平町 新田町 塚本 保

皆様の

昭和タクシーは

此際御得意様本位に
貸切料金の値下斷行
何卒御用命を

平驛前 電三四三番

先づ夏の健康には

定評ある榮養價

豊富なる鰻料理

南町平館隣 魚 榮

電話四二四番

御中元御贈答品には

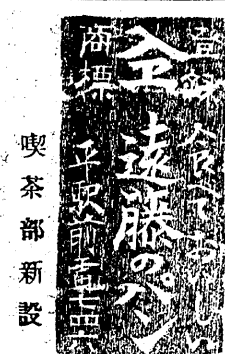
贈るに御便利・貰つて御重寶な

三井の商品券
三井呉服店

梅毒 淋病

皮膚病 婦人病 十二指腸 腸虫病

松村 胃性病 腸病 院醫科
（平町南電話一〇七）



三種 体温計
寒暖計 関内藥局
電話四〇番

銘酒 乃助 詰瓶

景品付賣出

一、景品 東京日本橋 白木屋 化粧石鹼
一、期間 昭和五年十月卅一日迄

一、一升瓶詰一本 [一、四〇〇] 毎に一個宛進呈

〇空瓶は一本二十錢に御引受け致します

市内 販賣店
平町新川町 谷口商店
同 材木町 緑川商店
同 長橋町橋際 小野商店

平町以外各町村一店宛特約販賣の求めに願す

發賣元 平町田町 永山酒店
電話二〇七番

最新式高級

セタン型二臺購入

自動車通のお客様は

斷然この車をお撰び致します

高級車でも破格の料金です

是非一度御試乗を!

マツザキタクシー

電話番號は 獅子シシク
四四九

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番